

まちひとしごと

Vol. 28

北海道倶知安高等学校

教諭 土生 紘太郎 さん

身近にある世界から学び 視野を広げて



倶

知安町で少年時代を過ごし、野球やスキーに親しんできたという土生紘太郎さんは、中学卒業後、札幌市内の高校・大学に通い、現在は北海道倶知安高等学校で英語科の教員を務めている。

「父が教員だったこともあり、幼いころからその仕事に対しある程度意識をしていました。また、学生時代に出会った先生方から受けた影響も大きく、大学進学を機に自らも教員となることを決意しました」

大学在学中に教員免許を取得し、卒業後は檜山管内の高校に5

年間勤務した後、2年前、倶知安高校に赴任した。

数年ぶりに倶知安での生活を始めたが、当初はスキー場周辺はもちろん、市街地においても、大きく変化したその町並みや、多くの外国人の姿に、正直なところ、地元に戻ってきたという実感は薄かったと話す。

「私が子どもの頃に比べ、町の見た目は大きく変わりました。一方で、日々の暮らしの中などで、当時お世話になった方々から、声をかけてもらう機会があり、住んでいる人が変わったわけではないのだと感じるようになりました」

土生さんは現在、クラス担任を担っていないものの、生徒会やESS (English speaking society) で顧問を務めており、これらの活動を通じ、高校生と共に地域に出ていく中、この町を訪れ暮らす外国人と接する機会も多いという。

「生徒たちは、学校での活動はもちろん、日常生活を通して、倶知安高校の生徒ならではの貴重な体験をしています。英語は学校の授業で学べますが、それを実際に使ってコミュニケーションをとることなど、学びの必要性を、地域を通して理解することで、自らの

視野を広げてほしいと考えています」

学校生活をはじめ、多くの経験から、日々成長する高校生を見て、自身も、いつまでも学ぶ姿勢を大切にしたいと土生さんは話していた。

「さまざまな活動を通して社会と接点を持つことで、生徒も自ら考え、それを実践しています。成長する生徒の姿に気付かされることも多く、私自身も彼らからたくさん学ぶことができます」

彼らの成長から、教員が学ぶことがある。そのことは、生徒の数が多くても、教員一人一人がしっかりと向き合うことを大切にしているからこそその結果だろう。

「生徒が地域の方々からさまざまなことを教えてもらっている中で、我々教員も、これまで以上に地域との接点を大切にし、時に協力して、地域にとっても、高校にとっても、お互いに必要とされる関係を築いていきたいと考えています」